

現職業	世帯	獨身者	計	百分比
會社小店員	二二	二三	四四	一・一九
外交員	一	一六	一七	〇・四六
人夫	八二〇	四九九	一、三〇九	三五・三九
屑屋拾撰	七四	七四	一四八	四・〇〇
其他有業者	一七	五八	七五	二・〇三
内職	二	一	二	〇・〇五
九、失業	一四	七	二一	〇・五七
一〇、無職	二八	九	三七	一・〇〇
一一、不明	一	一二	一三	〇・三五
總計	一、九三三	一、七六六	三、六九九	一〇〇・〇〇
現職業	世帯	獨身者	計	百分比
一、農業	二	一	三	〇・〇五
草刈業	二	一	三	〇・〇五
農業手傳	一	一	二	〇・〇五

計	二、水産業	三、鑛業	四、工業	百分比
四	四	四	四	〇・一一〇
砂利採取	三四	三四	三四	二・四〇三
砂利運搬	一	一	一	〇・〇二七
碎石工場	一	一	一	〇・〇二七
計	三四	三四	三四	二・四三〇
窯業	二	二	二	〇・〇五五
硝子工場主	二	二	二	〇・〇五五
硝子工場主	二	二	二	〇・〇五五
陶器工	一	一	一	〇・〇二七
セメント工	一	一	一	〇・〇二七
小計	二六	二六	二六	三・一三〇
金屬工業	一	一	一	〇・〇二七
鐵工	一	一	一	〇・〇二七
伸銅工	一	一	一	〇・〇二七
計	二六	二六	二六	三・一三〇
計	一八	一八	一八	〇・四八七

現職業	世帯	獨身者	計	百分比
製銅所工	二	六	七	〇・二八九
鐵線工	七	三	一〇	〇・二七〇
亞鉛工	五	五	一〇	〇・二七〇
鋸工	一	七	八	〇・二一六
捻鐵工	一	五	六	〇・一六二
鑄物工	四	一	五	〇・一〇八
ブリキ工	一	三	四	〇・〇八三
メタル工	一	三	四	〇・〇八一
釘工	一	二	三	〇・〇五四
鐵版工	一	二	三	〇・〇二七
鍛冶工	二	二	四	〇・〇五四
金物工	二	二	四	〇・〇五四
旋盤工	二	二	四	〇・〇五四
製管工	三	三	六	〇・〇八一
鉄工	一	一	二	〇・〇二七
パイプ工	一	一	二	〇・〇二七

六〇

小計	機械器具	洗濯器工	理髮器工	機械工	彫刻工	自動車修理工	同部分品工	自轉車見習工	小計	化業工業	ゴム工	タイヤ工	鍍金工	セロロイド工	石鹼工	製油工
五〇	二	二	二	一	一	二	二	一	六	一〇	六	一	三	一	一	二
五九	一	一	一	一	一	一	一	一	三	三七	一〇	九	三	二	二	十
一〇九	三	二	二	一	一	二	一	一	九	四七	一六	一三	四	三	三	二
二・九四五	〇・〇八一	〇・〇五四	〇・〇二七	〇・〇二七	〇・〇二七	〇・〇五四	〇・〇五四	〇・〇二七	〇・二四三	一・二七〇	〇・四三三	〇・三三四	〇・一〇八	〇・〇八一	〇・〇五四	六二

職業	世帯	獨身者	計	百分比
化學工業工	1	1	2	0.054
鍍金工場主	2	1	3	0.077
染料工	1	1	2	0.054
酸素工	1	1	2	0.054
小計	25	61	86	2.323
纖維工業	5	28	33	0.892
メリヤス工	1	1	2	0.054
製糸工	1	1	2	0.054
フェルト工	1	1	2	0.054
製絲工	1	1	2	0.054
疊工	1	1	2	0.054
小計	7	30	37	1.000
染物洗張洗濯	3	1	4	0.108
染物職	1	1	2	0.054
染工	1	1	2	0.054
洗濯業	1	1	2	0.054

六二

職業	世帯	獨身者	計	百分比
紙工業	3	1	4	0.108
玩具工	1	2	3	0.081
製函工	1	1	2	0.054
製紙工	1	3	4	0.081
小計	2	6	8	0.216
皮革工業	3	1	4	0.351
製靴工	3	3	6	0.162
靴底製造工	1	1	2	0.054
製靴工	1	1	2	0.054
塗革工	2	1	3	0.077
小計	8	3	11	0.567
木竹業	1	1	2	0.054
木工	1	1	2	0.054
家具職	2	1	3	0.077
小計	3	2	5	0.621

六三

現職業

飲食料嗜好品製造業

製糖工	三	八	二	計	二九七
製粉工	一	一	四		一〇八
製菓工	二	二	一		〇〇二七
蕎麥職	一	一	一		〇〇二七
もやしや	一	一	一		〇〇二七
小計	七	一〇	一七		〇四五九
被服身廻品製造	五	四	九		〇二四三
履物工	一	七	七		〇一八九
製帽工	一	二	三		〇〇八一
スリッパ工	一	一	二		〇〇二七
眞珠工	一	一	二		〇五四〇
小計	六	一四	二〇		〇一三五
和洋服裁縫仕立	一	二	三		〇二四三
ミシン掛工	三	二	五		〇二四三
仕立屋	二	七	九		

世帯

獨身者

計

百分比

六四

土木建築業

土木建築業	五	九	一四		〇三七八
土木人夫	七	三	一〇		一九〇二九
左官手傳	三	一	四		三〇二七
洗出工	一	五	六		〇一〇八
左官	五	一	六		〇一六二
土木請負	三	一	四		〇〇八一
石工	二	一	三		〇〇五四
鳶職	二	一	三		〇〇八一
大工	一	一	二		〇〇二七
瓦葺工	一	一	二		〇〇二七
小計	四	三	七		二二七三一
製版印刷製本業	九	一	一〇		〇二四三
印刷工	四	一	五		〇一三五
製本工	一	一	二		〇〇二七
製版工	一	一	二		〇〇二七

六五

現職業者		世帯	獨身者	計	百分比
小計	一四	一	一五	〇・四〇五	
瓦斯電氣等工業	五		五	〇・一三五	
電球工	一		一	〇・〇二七	
瓦斯工	一		一	〇・〇二七	
電氣工	一		一	〇・〇二七	
電池工	一		一	〇・〇二七	
懷中電工	一		一	〇・一八九	
小計	六	一	七	〇・三七八	
工場勞働者	八	六	一四	〇・〇二七	
職工	一	一	二	〇・〇二七	
ロール工	一	一	二	〇・〇二七	
萬年筆工	八	一	九	〇・四三二	
小計	二四	八	三二	〇・一〇八	
其他工業	一	一	二	〇・〇五四	
靴修繕工	一	一	二	〇・〇五四	
製藥工	一	一	二	〇・〇五四	

六六

五、商		合	小計	臨時工	ペンキ職工	塗工
露店業	一	六六三	九	一	五	一
行商	一	六九五	六	一	七	一
文房具	一	一、三五八	一五	一	七	一
納豆	一	三六・六九二	〇・四〇五	〇・〇二七	〇・一八九	〇・〇二七
雜貨	一	一、三五八	一五	一	七	一
藥用	一	一、三五八	一五	一	七	一
日用	一	一、三五八	一五	一	七	一
小間物	一	一、三五八	一五	一	七	一
飴	一	一、三五八	一五	一	七	一
玩具	一	一、三五八	一五	一	七	一

六七

現 職 業

世

帶

獨 身 者

計

百 分 比

おでん	青物	菓子	菓	呉服	蜜豆	豆腐	乾物	玄米パン	支那ソバ	雜誌	靴墨	不	小計	店舖小賣業	酒屋	賣藥
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	25	3	3	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	73	1	1	2
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	98	3	4	4
0.054	0.027	0.027	0.027	0.027	0.027	0.027	0.027	0.027	0.027	0.027	0.027	0.027	45.0	0.081	0.108	0.108

六八

セルロイド

呉服	菓子	青物	雜貨	人參	鐵物	不	小計	旅宿飲食業	飲食店	料理屋酌婦	食堂ヨツク	壽司屋	宿屋番頭	下宿屋	小計
1	1	1	1	1	1	1	10	2	6	4	2	1	1	1	7
1	1	1	1	1	1	1	4	3	2	6	2	1	1	1	13
1	1	1	1	1	1	1	14	3	8	6	2	1	1	1	19
0.054	0.027	0.027	0.027	0.027	0.027	0.027	37.8	0.216	0.216	0.216	0.054	0.027	0.027	0.027	5.13

六九

現職業	世帯	獨身者	計	百分比
理髮職	三	九	一二	〇・三二四
其他商業	一一一	五三	一六四	四・四三六
古物商	二二	三二	五四	一・四六〇
雜業	一一	六	一七	〇・一八九
古新聞買	二	三	五	〇・一三五
空場買	九	六	一五	〇・四〇五
空場買	一	五	六	〇・一三五
古鐵買	一	一	二	〇・〇二七
麻布買出	一	一	二	〇・〇二七
古錢商	一	一	二	〇・〇二七
小計	一四七	一〇四	二五一	六・七八七
合計	一九二	二〇二	三九四	一〇・六九三
六、交通業				
運輸業				
仲仕	三	六六	七九	二・二〇九

七、公務自由業	世帯	獨身者	計	百分比
自動車運轉手	二九	二二	五〇	一・三五二
軌道工夫	二	一	三	〇・〇五四
馬車曳	一	一	二	〇・〇五四
自動車助手	一	一	二	〇・〇五四
人糞運搬	一	一	二	〇・〇五四
小計	四五	九一	一三六	三・六七七
合計	四五	九一	一三六	三・六七七
七、公務自由業				
官公署吏員				
雇傭員從事員				
清掃人夫	二	九	一一	〇・五四一
雜役人	二	五	七	〇・四五九
公園丁	二	四	六	〇・一六二
紹介所職員	二	一	三	〇・〇二七
電話局事務員	一	一	二	〇・〇二七
市役所製圖工	一	一	二	〇・〇二七
小計	二六	一八	四四	一・一八九
合計	二六	一八	四四	一・一八九

醫務に關する業

現職業

世帯

獨身者

計

百分比

病院 雇員	1	5	5	0.135%
病院 雜役	1	1	1	0.027
小計	2	6	6	0.162
合計	27	50	50	1.351
八、一般有業者				
會社 小店員	18	6	24	0.649
會社 雜役	1	6	6	0.162
會社 雇員	3	9	12	0.324
商店 雜役 夫	1	1	2	0.054
洋服 屋店員	1	1	2	0.054
自轉車 店員	1	1	2	0.054
店員	1	1	2	0.054
小計	22	44	44	1.189
外 交 員				
洗濯屋 外交	1	7	8	0.216
會社 外交	1	1	2	0.054

七二

外 交 員	1	7	8	0.219
籐製品 外交	1	1	2	0.054
靴 下 外交	1	1	2	0.054
靴 墨 外交	1	1	2	0.054
砂利 外交	1	1	2	0.054
保險 外交	1	1	2	0.054
小計	1	16	17	0.459
人 夫				
自由勞働者	436	147	583	1576.8
工場 人 夫	362	331	693	1873.1
倉庫 人 夫	7	19	26	0.702
石炭 人 夫	3	2	5	0.135
人 夫 請 負	1	1	2	0.054
古鐵商 人 夫	1	1	2	0.054
小計	820	499	1319	3539.0

屑屋 捨 撰	1	1	2	0.054
小計	820	499	1319	3539.0

七三

現職業	世帯	獨身者	計	百分比
屑屋	五七	六一	一一九	三・一九〇
屑拾	六	一三	一九	〇・五二三
鐵屑屋	一〇	一	一〇	〇・二七〇
紙屑撰	一	一	一	〇・〇二七
小計	七四	七五	一四九	四・〇〇〇
其他有業者				
新聞配達	一	三九	三九	一・〇五四
汲取人	二三	四	一六	〇・四三二
牛乳配達	一	六	六	〇・一六二
靴磨	十	六	六	〇・二六二
清掃營業	二	十	二	〇・〇五四
酒屋配達	一	一	一	〇・〇二七
彫刻師見習	一	一	一	〇・〇二七
寫眞屋	一	一	一	〇・〇二七
映畫技手	一	一	一	〇・〇二七
競馬技手	一	一	一	〇・〇二七

七四

石版下書	内職	小計	合計	百分比
一	二	一九	一九三三	〇・〇二七
一	二	五八	一、七六六	〇・〇五四
九二五	六七〇	七七	三、六九九	二・〇八〇
一四	七	二一	一、五九五	〇・五六七
二八	九	三七	一、〇〇〇	一・〇〇〇
一	一二	一三	一、〇〇〇	〇・三五一
總計	一、九三三	一、七六六	三、六九九	一〇〇・〇〇〇

右の表に示されるが如く、元來農民であつた彼等も、殆んど全部が、現在に於ては、土工、人夫等の自由労働方面に轉向し、比較的技術を要する熟練労働方面或は、流暢なる内地語を必要とする職業方面に就職するものは稀である。

いま其の轉職状況を表に依つて示せば左の通りで、即ち次表世帯持の場合郷里に於ける職業は、總數の九〇・七四%が農業であつて、その殆んど全部が工業三四・三〇%及、一般的有業者四七・八五%就中土木建築業及び人夫に轉じて居り、獨身者に於ても亦た郷里にて七九・七三%を占めて居た農業者が、工業三九・三五%一般的有業者三七・九四%となつて轉向して居り、彼等の労働者としての地位とその方向を明に示してゐる。

現在郷里	職業											計	百分比					
	1 農業	2 水産業	3 鑛業	4 工業	5 商業	6 交通業	7 公務	8 其他有業者	9 失業	10 無職	11 不明							
2 水産業																		
3 鑛業																		
4 工業																		
5 商業																		
6 交通業																		
7 公務																		
8 其他有業者																		
9 失業																		
10 無職																		
11 不明																		
計	1,488	3	9	2	13	3	14	3	1	1	6	1	1	1	1	1	1	1
百分比(%)	77.7	0.2	0.6	0.8	0.9	0.2	0.9	0.2	0.1	0.1	0.4	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1

二、朝鮮人労働者の長所と短所

朝鮮人労働者の労働者としての長所と短所に就ては、場所と仕事の方面の異なるに従ひ、又た観察點の異なるに従つてその見解も亦た雑多となるのであるが、左に少しくその主點を述べて参考に資せんとするものである。

イ 勤続状態

朝鮮人労働者の勤続状態を見るに、その労働方面の相違に依り、勤続状態も亦た異つてゐる。即ち、土木建築方面——土方等の如きは一人の親方に従つて四年、五年と行動を共にするもの少く、賃銀の高低のみならず仲間の

勧誘により移動する傾向が少くない。而も此の方面に従事するものは永続的に勤務するの意志あるもの少く、短きは數日を出でずして退職するものも尠くない。また團體的に去就する弊が多少認められる。

他面、造船所製鋼所倉庫其他に於ては、勤続状態は内地人労働者と何等異なる處なく、寧ろ永続性あるやに見受けられる。中でもホテル・レストラン等に於ては頗る良好なるものがある。

ロ 生産量

生産量に於ても其の従事する仕事の如何によつて大いに異なる。即ち精密なる頭腦を要する職務、技術的要素を必要とする工程を有するもの、敏活なる身體の動作を要し、細心の注意力を必要とするもの等、例へば造船建築等に於ける機械工、火造工、組立工等に於ては内地人労働者に比して劣る處を見るが、これに反して力業を主とする労働、一定の工程を反覆するもの等總じて重きものを背又は、肩の力にて運搬するには遙かに勝れたものが認められる。

ハ 労働の耐久力

勤務時間中に於ける労働の持續力に就ては、内地人と比すれば概して耐久力強く、就中肩荷役による貨物の運搬に於てその著しきを見る。但し空腹時等には別人の如く忍耐力衰へ勞務に従事するを厭ふの風がある。

ニ 就勞中の状態

朝鮮人労働者に共通の弱點は動作不活潑にして、責任觀念比較的乏しく且聊か怠惰の風あり、看視なき時は、油を賣るもの多きを認める。概して彼等には監督の當否が大いに彼等の勤怠の上に影響のあることは否定出來ぬ。

朝鮮人労働者は、一般に衛生思想の欠除が見受けられる。而し乍ら使用者側に於て注意監督を怠らずば、彼等は本性従順であるから充分衛生状態を良好に保たしむる事が出来る。而も一旦疾病を得たる後は非常に用心深く養生する點は感心の至りであつて、内地に永住する朝鮮人労働者は、内地人労働者に比し何等衛生状態の劣つた處を發見し得ない。

ハ 團體又は共同生活に關して

朝鮮人労働者は至つて團結心に富み、善惡共に一致して當る風がある。言語風俗を異にする出稼地に於て郷黨相集り共同生活をなすは自然の情である。

近來内地化せる朝鮮人労働者は敢て蝟集して共同生活をせず、點々と内地人に混じて生活してゐるが、一旦事あれば直ちに彼等同志は團結する。而も内地人と彼等とは容易に一致の行動を採ることがない。然し乍ら内地人に屢々見られるが如き同志を讒侮、中傷、己一人の立場のみをよくせんとする等の性癖少きことは内地人の學ぶべき所ではあるまいか。一面に於ては個人としては従順なる彼等も、團結する時は多數を恃んで自己の能力を考へず、賃銀の額等級の撤廢等、各種の強要をなし、又た各人の技能に應じ支給する賃銀の等差等も恰も故なくしての差別待遇なるかの如く邪推し、敢て之れに對し満足の意を表することがなく、更に次から次へと額を要求する。要するに正當なる要求の場合には其の團結も長所として認め得るが不合理なる要求をする場合の團結は使役上甚だ困難を伴ふ場合もあるのである。

ト 朝鮮人労働者の美點

朝鮮人労働者の美點としては性質上から云へば、概して朴直従順であるから命ぜられたることは取捨することなく、正直に行ひ、主人思ひなことは内地人の比ではない。従て監督宜しきを得れば内地人より遙かに使用し易い。又た父母に對する孝心が深く、其の安否は必らず毎月一二回は之を問ひ、而も自己の給料の幾分を割いて郷里なる父母、妻子の許に仕送りする點は内地人の及ぶ所ではない。仕事の上から云へば彼等個々の場合には、命ぜられたる仕事は、内地人の忌み嫌ふ不潔なる作業も、別に意とすることなく甘じて就業し、身體の汚れる等のことは意に介しない。従て其の方面に従事する者は、比較的少額の給料にも格別不平を述べず、尙ほ月々收入の内より貯金をなすとか、國元に送金するとか、概して心懸の感心すべきものが多い。また三度の食事を唯一の慰安として粗食に甘じ、質素を旨とし、下劣なる遊戯に耽ける等のことが尠い。

チ 朝鮮人労働者の短所

彼等個々の場合は多くの長所を有するのであるが、一旦團結した上は、其の内藏せる美點は、多くの短所を以て覆はれ、表面に甚だ面白からぬ性癖を表はして來る。單獨の場合に従順であつた者も群集心理に作用せられ、濫りに附和雷同し、頑迷固陋となり思慮の周密を缺き、偏見が加重されて甚しく物事に表裏を構へる様になる。従て監督者なき時は怠惰に流れ、敏活を缺く俁れがある。

以上の事は事大思想の然らしむる處で、時によつて一面長い物には卷かれる主義は長所となることもあるが、かかる團體的行動をとる場合には、義を顧みずして大利に付き易き事大思想が、非常なる缺點として表はれて來る。凡そ言語動作は微妙なる作用を及ぼすものであるから、風俗習慣の相違の爲め、意思の疏通が缺け従つて彼等から見れば何等奇異にも感ず、又た何の氣なしに行ふ動作、言語も、内地人より見れば妙には思れる節もあり

氣を付けて充分慎重に用ひたつもの言語でも、兎角誤解を生み易く、惹いては感情上の問題に迄で發展する候なしとしない。

要するに内地人は異郷にあつて風俗習慣に馴染ない彼等の立場を考慮して、同情的に接するならば、彼等をよりよく導き彼等の長を伸ばし得るであらう。

三、雇傭状況

1、就職の方法

本調査に依ればその就職方法は、世帯持にあつては、職業紹介所を通じたるもの九二九で四八・〇六%を占め知人の紹介が五八〇で三〇・〇一%で、兩者を以て其の大部分を占め、獨身者に於ては知人の紹介によるものが七二一の四〇・八二%で第一を占め、これに次では保護團體を通じたる二九八の一六・八七%及び職業紹介所を通じたる二八五の一六・一四%である。即ち世帯持にしても獨身者にしても、知人の紹介によるもの多く、前者は職業紹介所を通じたるもの第一位であり、後者に於ても相當多數を占めてゐるのは、職業紹介所の利用の道が開拓せられて來た事を示してゐる。

試みに昭和三年當時の調査とその主なるものを比較して見れば次の通りである。

知人の紹介	世帯持		獨身者	
	昭和三年	昭和九年	昭和三年	昭和九年
	九・七五%	三〇・〇一%	一五・九四%	四〇・八二%

職業紹介所	世帯持		獨身者	
	昭和三年	昭和九年	昭和三年	昭和九年
保護團體	四・五二五	四・八六	五・二二五	一六・八七
自己直接	一九・七五	一一・二八	一一・七五	一三・一四

右に依れば昭和三年より昭和九年迄六ヶ年間に如何に職業紹介所の利用が増大したかを如實に示し、又知人—朝鮮人の内地に定住して定職を得てゐるもの—も相當増加した事が示される、これに反して保護團體の仲介によるもの、著しき減少を六年前の調査は主として保護團體に依頼した關係から、自らその關係のもの、調査となつた爲と思はれる。

就職方法調

(表の十四) 世帯持

現職業	世帯持		獨身者	
	昭和三年	昭和九年	昭和三年	昭和九年
一、農	一	二	一	一
二、水産	一	一	一	一
三、鑛業	三	七	一	一
四、工業	元	三〇	三	三
窯業	一	三	二	三
金屬工業	二	三	一	一
機械器具製造業	一	三	一	一
化學工業	一	六	一	一
纖維工業	一	六	一	一
計	四	四	一	一

現職業	保護 國體	紹介 知人	直接 自分	職業 紹介所	親方	兄 不明	周旋 屋	新聞 廣告	親族	無	計
金屬工業	10	4	5	1							20
機械器具製造業	9	3	3	1							16
化學工業	5	6	1	2							14
織維工業	2	4	1	1							8
染物洗張洗濯業	2	5	1	1							9
紙工業	2	4	1	1							8
皮革工業	2	5	1	1							9
木竹業	1	8	1	1							11
飲食嗜好品製造	3	9	1	1							14
被服身廻品製造	2	10	1	1							14
和洋服裁縫仕立	2	3	1	1							7
土木建築業	1	10	1	1							13
製版印刷製本業	1	1	1	1							4
瓦斯電氣等工業	1	1	1	1							4
工場労働者	3	5	1	1							10
其他工業	2	5	1	1							9
五、商 業											
露店	1	9	6	1							17
行商	3	1	1	1							6
店舖小賣業	3	1	1	1							6
旅館飲食業	1	2	1	1							5
理結髮人	1	7	1	1							10

其他商業	六、交 通業	七、公 務自由業	八、其 他有業者	會社 商店員	外 交員	人 夫	肩 屋拾 撰	其 他有 業者	內 職	九、失 業	一〇、無 職	一〇、不 明	總 計	百 分 比 (%)
4	3	3	17	6	5	1	3	10	10	1	1	2	100.00	
26	5	3	28	20	6	2	2	7	7	1	1	77	77.00	
30	5	3	31	6	3	2	2	3	3	1	1	80	80.00	
35	5	3	36	6	3	2	2	3	3	1	1	85	85.00	
40	5	3	41	6	3	2	2	3	3	1	1	90	90.00	
45	5	3	46	6	3	2	2	3	3	1	1	95	95.00	
50	5	3	51	6	3	2	2	3	3	1	1	100	100.00	

2、勤勞狀況

勤勞狀況の調査について見るに調査總人員一、九三三の世帯持は、其の勤勞總日數が三二、〇八六で一人當り平均日數は一六、〇八日を占めてゐる。而して、三〇日間全勤のものが一六、七二%で二五日以下が一三、三六%、

二〇日以下が一七・四四%、一五日以下が一五・二二%、一〇日以下が一四・四三%、八日以下が一八・一六%、五日以下が二・七四%で無勤勞が二・九五%である。なほ單獨者は調査總人員一、七六六の勤勞總日數は三二二、九六二に該當し、一人當り平日勤勞日數は一八、六六日である。而して、三〇日全勤のものが二、一五%、二五日以下が〇・二八%、二〇日以下が二・一五%、一五日以下が〇・二八%、一〇日以下が一・一三%、八日以下が五・八三%五日以下が一・〇一%、三日以下が三・三三%、一日が一・二二%、無勤勞が二六・二二%を占めてゐる状態で、單獨者は、世帯持に比して遙かに勤勞日數が僅少である。此のことを他の言葉で云へば失業率が高いと云ふことになる。即ち、勤勞狀況を職業別に日數別に表示せば左の通りである。

勤勞狀況調 (表の十六) 世帯持

現 職 業	無勤 一日 三日 五日 八日 十日 十五日 廿日 廿五日 卅日							計	勤勞一ヶ月平均日數					
	無勤	一日	三日	五日	八日	十日	十五日			廿日	廿五日	卅日		
一、農 業														
二、水 産 業														
三、鐵 業														
四、工 業														
窯 業														
金 屬 工 業														
機 械 器 具 製 造 業														
化 學 工 業														
織 維 工 業														
計	七	三	六	五	六	三	六	三	三	三	三	三	三	三
勤勞一ヶ月平均日數	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七

現 職 業	無勤 一日 三日 五日 八日 十日 十五日 廿日 廿五日 卅日							計	勤勞一ヶ月平均日數					
	無勤	一日	三日	五日	八日	十日	十五日			廿日	廿五日	卅日		
染物洗張洗濯業														
紙 工 業														
皮 革 工 業														
木 竹 業														
飲食嗜好品製造														
被服身廻品製造														
和洋服裁縫仕立														
土木建築業														
製版印刷製本業														
瓦斯電氣等工業														
工場労働者														
其他工業														
五、商 業														
露 店														
行 店														
店舖小賣業														
旅館飲食業														
理 結 髪 人														
其他商業														
六、交 通 業														
七、公 務 自 由 業														
官公署吏員														
雇傭員従業員														
醫務ニ關スル業														
八、其他有業者														
計	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
勤勞一ヶ月平均日數	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一

現職業	勤勞狀況											計	勤勞一ヶ月平均 總日數	勤勞日數			
	無勤	一日以下	二日	五日	八日	十日	十五日	廿日	廿五日	卅日	卅日						
會社商店員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
外交員	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
人夫	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
層屋拾撰	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
其他有業者	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
內職	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
九、失職	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
三、無職	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
二、不計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
百分比(%)	2.5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

勤勞狀況調 (表十七) (單獨者)

現職業	勤勞狀況											計	勤勞一ヶ月平均 總日數	勤勞日數			
	無勤	一日以下	二日	五日	八日	十日	十五日	廿日	廿五日	卅日	卅日						
一、農業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
二、水産業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
三、鑛業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
四、工業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
金屬工業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

現職業	勤勞狀況											計	勤勞一ヶ月平均 總日數	勤勞日數			
	無勤	一日以下	二日	五日	八日	十日	十五日	廿日	廿五日	卅日	卅日						
機械器具製造業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
化學工業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
織維工業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
染物洗張洗濯業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
紙工業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
皮革工業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
木竹業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
飲食嗜好品製造	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
被服身廻品製造	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
和洋服裁縫仕立	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
土木建築業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
製版印刷製本業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
瓦斯電氣等工業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
工場労働者	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
其他工業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
五、商業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
露店	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
行商	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
店舖小賣業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
旅館飲食業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
理結髮人	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
其他商人	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
六、交通業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
七、公務自由業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

現職業	無勤日数										計	勤勞一ヶ月平均勤勞日数
	無勤一日以下	五日	八日	十日	十五日	廿日	廿五日	卅日	卅日以上	失業ナシ		
官公署吏員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
雇傭員從業員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
醫務ニ關スル業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
八、其他有業者	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
會社商店員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
外 交 員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
人 夫	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
屑屋拾撰	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
其他有業者	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
九、失 業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
二、無 職	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
三、不 明	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
總 計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
百分比(%)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

四、失業問題

以上は勤勞狀況の調査であるが、之を更に失業狀況について其の日數を見るに左表の通りである。即ち、四月中の勞働日數を失業日數に依つて見れば世帯持に於ては全失二、九五%失業日のなきもの八、三八%で、十六日以上失業せるもの四二、四七%を占めて居て、之が最多數である。獨身者に於ては、全失一五、七一%失業日のなきもの二、〇四%最多數を占めて居るのが一六日以上の二七、三五%である。

次に之を職業別にして其の最多數を占めて居る土木建築人夫を主たる構成分子とする工業、及日傭勞働屑屋等

を主たる構成分子とする其他有業者については、其の一ヶ月平均失業日數に於ては一五日五五、工業に於ては一三日五〇、であつて失業及び無職に次いで居る。又獨身者に於ても、其他有業者が一二日三六、工業が九日七五となつてゐる。

而して失業無職に次ぐものは交通業の一四日八八である。農業は例外として、失業日數の少ないものは公務自由業であつて一日乃至三日である。

失業狀況調

(表の十八) 世帯持

現 職 業	全失日数										計	平均日数
	全失一日	三日以下	五日	八日	十日	十五日	廿日	廿五日	卅日	卅日以上		
一、農 業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
二、水 産 業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
三、鐵 業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
四、工 業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
窯 業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
金屬工業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
機械器具製造業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
化學工業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
織 維 工 業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
染物洗張洗濯業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
紙 工 業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
皮革工業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
木 竹 業	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
平均日数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

現職業	飲食嗜好品製造	被服身廻品製造	和洋服裁縫仕立	土木建築業	製版印刷製本業	瓦斯電氣等工業	工場労働者	其他工業	五、商	露店	行商	店舖小賣業	旅館飲食業	理結髪人	其他商業	六、交	通業	七、公務自由業	官公署史員	雇傭員從業員	醫務ニ關スル業	八、其他有業者	會社商店員	外交員
全失	1	1	1	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1
一日	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
三日以下	2	3	1	3	6	5	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
五日	3	1	1	1	1	1	1	1	4	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
八日	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
十日	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
十五日	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
六日以上	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
失業ナシ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	7	6	5	6	6	6	8	9	12	11	10	10	10	10	10	11	11	11	11	11	11	11	11	11
平均日	4.4	1.8	2.0	1.7	1.0	1.0	1.3	1.1	1.3	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0

九四

現職業	人夫	屑屋拾撰	其他有業者	九、失業	三、無職	二、不明	總計
全失	2	1	1	1	1	1	2
一日	1	1	1	1	1	1	1
三日以下	2	1	1	1	1	1	2
五日	2	1	1	1	1	1	2
八日	3	1	1	1	1	1	3
十日	7	1	1	1	1	1	7
十五日	7	1	1	1	1	1	7
六日以上	7	1	1	1	1	1	7
失業ナシ	6	1	1	1	1	1	6
計	40	7	7	7	7	7	40
平均日	6.7	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	6.7

失業狀況調

(表の十九 單獨者)

現職業	一、農	二、水産	三、鑛業	四、工業	窯業	金屬工業	機械器具製造	化學工業	纖維工業	染物洗滌洗濯業
全失	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
一日	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
三日以下	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
五日	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
八日	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
十日	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
十五日	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
六日以上	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
失業ナシ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
平均日	10.7	9.7	9.7	9.7	9.7	9.7	9.7	9.7	9.7	9.7

九五

現職業	全失							計	平均
	一日	三日以下	五日	八日	十日	十五日	六日以上		
紙工業								二	〇・八三
皮革工業								四	二・七
木竹業								一	六・三〇
飲食嗜好品製造								一	八・九〇
被服身廻品製造								一	五・五〇
和洋服裁縫仕立								一	〇・四四
土木建築業								一	一五・〇五
製版印刷製本業								一	二・〇〇
瓦斯電気等工業								一	三・三三
工場労働者								一	二・〇〇
其他業								一	三・三三
五、商業								一	六・七
露店								一	五・〇〇
行商								一	六・三三
店舖小賣業								一	六・三三
旅館飲食業								一	六・三三
理結髪人								一	〇・五〇
其他商業								一	七・〇五
六、交通業								一	一四・八
七、公務自由業								一	一・〇元
官公署吏員								一	一・〇元
雇傭員従業員								一	一・〇元
醫務ニ關スル業								一	一・〇元

九六

八、其他有業者	全失							計	平均
	一日	三日以下	五日	八日	十日	十五日	六日以上		
會社商店員								三	三・三
外交員								二	四・六
人夫								三	一・八
屑屋拾撰								一	一五・〇四
其他有業者								二	六・六
内職								二	二・四七
九、失業								一	一五・七
一〇、無職								一	一五・七
二、不明								三	三〇・〇〇
合計								三	三〇・〇〇
百分比(%)								二〇・四	一〇・九

次に東京府下に於ける朝鮮人労働者の失業者は、どの程度の數を占めてゐるか。之を知ることが、彼等の生活と労働状況を理解するのに最も必要な事項である。東京府の失業者推定數に依ると、昭和十年七月一日現在が六六、〇七六の失業者の中、給料生活者が一八、六九四で日傭労働者が四二、六三一、其他の労働者が四、七五一である。朝鮮人労働者は、給料生活者が三一六、日傭労働者が二〇、六六四、其他の労働者が一、一八五で、その總數の百分比は、内地人労働者が六六・四六%、朝鮮人労働者が三三・五四%である。而して給料生活者に於ては、朝鮮人は極めて僅少であるが、日傭労働者に於ては、朝鮮人労働者が五三・六四%で、内地人は四六・三六%の反対現象を呈してゐる。之に依ると、朝鮮人下級自由労働者の失業率が如何に深刻なものであり、之に伴ふ彼等の生活實狀が略々推察するに餘りあるのである。

九七